



日本植物分類学会

ニュースレター

No. 18

Aug. 2005

目次

諸報告.....	2
絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会委員について.....	2
庶務報告(2005年4~6月).....	2
お知らせ.....	2
書評依頼図書.....	2
評議員会開催のお知らせ.....	3
日本植物分類学会第5回大会(2006年)のお知らせ.....	3
第6回大会開催地の募集.....	4
第5回(平成18年度)日本植物分類学会賞受賞候補者の募集.....	4
長野県植物誌資料集普及版CD-ROM.....	5
映像資料「花を咲かせる植物の起源をたずねて-被子植物の起源と 進化-」の制作と最古の被子植物 <i>Archaeofructus</i> の復元模型の 公開.....	6
シリーズ・ハーバリウム紹介.....	10
倉敷市立自然史博物館標本庫のご案内.....	10
倉敷市立自然史博物館ハーバリウムを利用して.....	11
本の紹介と配布.....	12
近畿地方植物誌の刊行を祝す.....	12
大いなる自然の実験場-クラカタウ島研究論文集.....	13
植物地理などに関する耳より情報(別刷り配布のご案内).....	14
いきもの便り.....	15
韓国の美味しい種・1・.....	15
会員消息.....	16

諸報告**絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会委員について**

庶務幹事 黒沢高秀

今期の絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会委員が決まりましたので報告いたします。前号のニューズレターで報告すべきところ、遅くなってしまいました。関係各位にお詫び申し上げます。

柏谷 博之(委員長, 地衣類)

中西 稔 井上 正鉄 (以上地衣類)

岩月 善之助 神田 啓史 古木 達郎 長谷川 二郎 (以上蘚苔類)

服部 力 吹春 俊光 出川 洋介 土居 祥兌 (以上菌類)

千原 光雄 渡辺 信 (以上藻類)

庶務報告(2005年4~6月)

庶務幹事 黒沢高秀

- ・有限責任法人学術著作権協会の「複写使用料支払いのための学協会現況調査」に回答した(5月15日)。
- ・日本植物分類学会賞等検討委員会角野康郎委員長より、会長宛の答申の補足説明を受け取った(6月22日)。
- ・渡辺巖会員によるAPG誌掲載図版のwebページへの転載を会長名で許可した(6月26日)。
- ・有限責任法人学術著作権協会と「文献提供業者(DS)による限定的電子化許諾に関する代理委任契約書」を会長名で交わした

(7月18日)。これは、文献提供業者が複写物を顧客に提供する目的で、著作物のイメージファイルを作成することを許諾するとともに、その件について学術著作権協会に委託するという内容の契約書です。なお、基本的に商業目的の利用である(電子図書館の新・論文サービス等とは異なる)ことから、使用料を取ることとし、使用料は契約している4誌(『日本植物分類学会誌』『APG』『日本植物学会ニューズレター』『植物分類, 地理』)のいずれも学術著作権協会が参考値としている基本料(10頁まで)150円, 追加料(超過分10頁ごとに)100円としました。

お知らせ**書評依頼図書**

庶務幹事 黒沢高秀

下記の図書が書評依頼図書として学会事務局に届いています。書評の執筆を希望される方は学会事務局まで電子メール(kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp)や葉書等でご連絡下さい。なお、執筆者には該当図書を差し上げます。

1. 小野木三郎著・撮影 (2005)「花かおる乗鞍岳」112 pp. ほおずき書籍. 1000円.
2. 湯田六男著・山口昭夫撮影 (2005)「花かおる草津・白根山」113 pp. ほおずき書籍. 1000円.

評議員会開催のお知らせ

庶務幹事 黒沢高秀

下記の通り評議員会を開催します。評議員、幹事会、関係各位の出席をお願いいたします。なお、この日は会場の富山大学で日本植物学会が開催されています。

日時： 2005年9月23日(金) 午前11時15分ごろ

場所： 富山大学人文・社会系共通教育棟 1階

(日本植物学会B(分類・系統・進化)会場)

審議事項： (1) 若手奨励賞, 論文賞, ポスター賞について
(2) その他

審議事項についてご意見、ご希望がございましたら、評議員、会長、幹事、委員長のいずれかにお伝え下さい。

日本植物分類学会第5回大会(2006年)のお知らせ

庶務幹事 黒沢高秀

日本植物分類学会第5回大会は次のとおり開催する予定です。なお、大会の詳細および参加申し込み等のご案内は、次号のニュースレター(11月号)でお知らせする予定です。

1. 会場

沖縄国際大学(沖縄県宜野湾市宜野湾2-6-1)

2. 日程

3月18日(土)午前: 一般講演

午後: 総会, 公開シンポジウム((仮題)琉球列島の植物地理学), 懇親会

3月19日(日) 午前: 一般講演, ポスター講演, 学会賞受賞記念講演

午後: 一般講演

3. 大会に関する連絡先

横田昌嗣

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1

琉球大学理学部海洋自然科学科生物系

Tel: 098-895-8544, Fax: 098-895-8576

E-mail: yokota@eve.u-ryukyu.ac.jp

第6回大会開催地の募集

庶務幹事 黒沢高秀

日本植物分類学会第6回大会(2007年)の開催地を募集いたします。

大会開催にあたっては、講演会場(約150名収容可能なもの)、クローク、本部、休憩室、ポスター発表会場等のスペースが必要となります。また、大会中に評議員会等の会議室をお借りすることになります。大会前の準備としては、大会案内と大会申込書の作成、プログラム編成、要旨集の編集・発行、懇親会会場の選定などがあります(大会準備に関するマニュアルが代々の大会準備委員会により引き継がれています)。大会運営は学会からの補助金(10万円)と参加費で行っていただきます。

大会をお引き受け下さる(あるいは場合によっては引き受けても良い)という会員の方は、2005年10月20日までに庶務幹事宛(下記)にご連絡をお願いいたします。

〒960-1296 福島市金谷川1
福島大学共生システム理工学類内
日本植物分類学会事務局(庶務幹事 黒沢高秀)
TEL 024-548-8201 FAX 024-548-3181
e-mail kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

ご参考までに、これまでの大会開催地(旧学会大会を含む)は学会ホームページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsps/>)でご覧になることができます。

第5回(平成18年度)日本植物分類学会賞受賞候補者の募集

学会賞選考委員長 加藤雅啓

募集要領

日本植物分類学会賞は、分類学の調査及び研究を通して本学会の発展に貢献された会員を顕彰するものです。プロ、アマチュアを問わず、さまざまな内容の調査・研究業績を幅広く対象にします。以下の要領で受賞候補者を募集致しますので、自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。なお、受賞候補者の選考は「学会賞についての細則」に定める学会賞選考委員会で行います。

1. 資格:本学会の会員ならばどなたでも応募できます。
2. 応募方法:他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由をお知らせ下さい。必要な資料があれば選考委員会から候補者に提出を依頼します。
自薦の場合は、以下の事項をA4用紙に記入して(書式は自由)お送り下さい。
応募は、郵便またはE-mail でお願います。

3. 記入事項(自薦の場合)
 - (1) 候補者の略歴(生年月日、学歴、職歴)
 - (2) 調査・研究業績の概要
 - (3) 業績リスト(著書、論文、他)と本学会大会での発表記録。できれば代表的な業績の別刷またはコピーを添付してください。
4. 送付・問い合わせ先:

〒305-0005 つくば市天久保 4-1-1
 国立科学博物館植物研究部
 加藤雅啓 宛
 TEL: 029-853-8970 FAX: 029-853-8401
 e-mail: sorang@kahaku.go.jp
5. 応募締切日: 平成17年11月30日
6. その他: 受賞者は平成18年春の日本植物分類学会総会において表彰されます。また受賞者には原則として同大会において受賞講演を行っていただきます。

長野県植物誌資料集普及版CD-ROM

清水建美

1960年に長野県の植物研究家たちを中心に、長野県植物研究会を作った。

県内の植物標本を集め、同定・整理を続け、最初は80桁のパンチカードに記録を残していたが、コンピュータの小型化と共に、当時国立科学博物館におられた金井弘夫氏と、植物の標本や記録のデータをパソコンで処理する試みを始めた。そして1997年、このデータを使って会員みんなで分担しながら、長野県植物誌(A4版、1,735頁)を信濃毎日新聞社より刊行することができた。20年がかりの仕事であったが、これは単なる植物目録ではなく、検索表と確かな標本引用を行った新しい形の日本の地方植物誌であった。

この本の完成後、さらに標本資料のデータベース化を進め、この植物誌の正誤表の役割もかねて、後々の研究者たちのために新しい資料集を提供すべく、長野県植物誌資料集CD-ROM作成委員会を作った。信州大学の標本はもとより、他の植物標本庫にもお世話になり、長野県産の植物標本を調べさせて頂き、2002年にはCD-ROMテスト版を作った。これは各項

目についてのインデックス検索、年代検索、分布図作成などの機能をもったものである。これらの昨日については、別報する予定である。

これを基に更に新しい資料追加や同定の見直し、訂正を重ねたうえ、ソフトの機能も改善して、やっと2005年4月8日に、詳細版と自然保護のために配慮した普及版を完成させた。レコード数は標本と視認を含め、436,529件である。2001年9月、北京で第三回国際植物標本保蔵大会が開催された際、招かれて出席し、進行中のこのCD-ROMについて発表した。それがいよいよ今年、形を見ることになったものである。

第四回国際植物標本保蔵大会は、2005年にインドのLucknowで開かれることになっている(連絡先: Dr. R. R. Rao E-mail: rr_rao@satyam.net.in)。植物標本という客観的証拠資料をいかに守って整理して行くかということは、世界の植物研究の原点として、研究者全体の大きな課題なのである。

(清水建美: 〒390-0312松本市岡田松岡211-3 TEL/FAX 0263-46-3086)

映像資料「花を咲かせる植物の起源をたずねて-被子植物の起源と進化-」 の制作と最古の被子植物*Archaeofructus*の復元模型の公開

寺田和雄(福井県立恐竜博物館)

福井県立恐竜博物館では、一般の観覧者に対してオンデマンドで放映する映像資料を毎年1本制作しています。昨年度は「花を咲かせる植物の起源をたずねて-被子植物の起源と進化-」というタイトルで映像を制作しました。

最初の被子植物はどんなものであったか、被子植物の起源と初期進化に関しては未だ謎となっています。最近、中国の中生代の地層から、最古の被子植物とされる*Archaeofructus*という化石が見つかり、さらに、分子系統学の成果として、全世界の現生被子植物の系統関係がわかってきました。映像では中国遼寧省やニューカレドニアでの現地取材やCG(コンピュータグラフィックス)の制作を行い、被子植物の起源を追い求めている研究のホットな話題を映像化することにしました。さらに、その映像の中に入れるため、精巧な*Archaeofructus*の実物大の復元模型を製作しました。ここではそれらを制作した様子を簡単に話したいと思います。

*Archaeofructus*の発見現場をたずねて

1998年、中国遼寧省の中生代の地層から、最古の被子植物の化石が発見されたという論文が、*Science*に載りました。その化石を吉林大学古生物地層学研究センターの孫革教授らは、*Archaeofructus liaoningensis*と名付けました。さらに、2002年に孫教授らが別種の*A. sinensis*を報告しました。孫教授らは、これら2種で*Archaeofructaceae*科を設立し、現生被子植物の姉妹群になるとしました。

昨年9月19日に撮影に向かい、吉林省の長春空港にて孫教授に出迎えられまし

た。吉林大学で化石標本や孫教授のインタビューの撮影を行い、2日後に長春から遼寧省北票市に向かいました。遼寧省西部とその周辺にかけては、最近話題になっている羽毛恐竜や原始的鳥類が数多く発見されているところです。特に四合屯村周辺は特別保護地域となっていて、許可の無いものは入れません。初めて中華竜鳥の化石を発見した李印芳さん宅で昼食を頂き、*A. liaoningensis*の発見された黄半吉溝村に向かいました。村の裏の小高い丘の中腹から化石は見つかりました。現場で孫教授は何十年もこの地域を掘り、ようやく*Archaeofructus*が見つかった話を聞きました。快晴の中、撮影を終えて、瀋陽経由で日本に戻りました。



*Archaeofructus liaoningensis*の発見現場での撮影

*Amborella*の生育地をたずねて

Amborella trichopoda (Amborellaceae) は、みなさんをご存じの通り、ニューカレドニアのみに遺存的に生育している植物で、分子系統解析によって現生植物の中で最も初期に分岐したと考えられています。

昨年11月22日にニューカレドニアに向かいました。Noumea空港の近くの



*Amborella*の撮影(New Caledonia, Dogny高原700m付近)

Tontoutaにホテルを取り、翌日Dogny高原を登り口のSarrameaまでタクシーに乗って向かいました。*Amborella*を探しながら登り、約2時間、標高700m付近にようやく見つけました。*Amborella*は、ちょうど果実が成熟しはじめているところで、緑〜青紫色した果実がたわわに実っていました。そこで撮影カメラを廻しだして、果実や葉のアップを撮ろうとしたところから、大雨が降り出しました。その日の撮影を断念し、あきらめてタクシーとの待ち合わせ場所に戻りました。2日目も朝から雨でしたが、無事撮影を終えて帰ることができました。何人もの日本人の研究者がDogny高原の*Amborella*を見に行かれていますと思いますが、カメラクルーが入って撮影したのは初めてではないかと思えます。

3次元動画CG(被子植物と裸子植物の違い・植物の系統図)の製作

映像の中でもっとも力をいれた一つがCGです。博物館の普及事業などで一般の方々に植物の進化の話をする際に、いつも悩ませるのが被子・裸子といった言葉です。恐竜や動物は分類の概念がなくても、いくらか形や名前から入れますが、植物の進化を話す時には、どうしても被子・裸子という言葉の説明してからでないといけないことがあります。そこで、できるだけわかりやすく被子植物と裸子植物の違いを説明するため、花の内部構造を3次元CGで製作しました。一般的な教科書や啓蒙書では、被子・裸子植物の花内部の違いを2次的に描かれています。そのため例えば、珠孔という穴が隙間にしか見えません。しかしながら、3次元的に見せると穴として見えます。

さらに、被子植物と裸子植物の受精の違いも3次元の動画で見せることにしました。被子植物では、三溝孔粒や花粉管の伸張、花粉管核・精核などの分裂の様子、重複受精の様子など詳細にCGで復元しました。

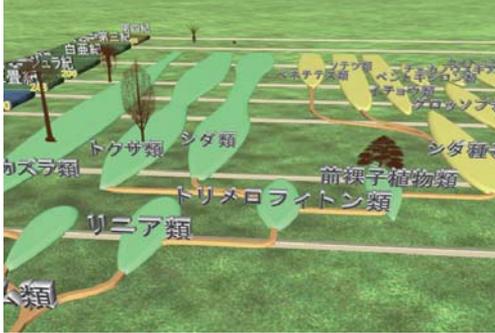


被子植物と裸子植物の受精様式の3次元動画CG

植物の系統図

系統図というのも一般の方が分かりにくいものの一つです。進化という概念と地質年代的感覚が一枚の図では理解できない部分があるからだと思います。裳華房の「植物の多様性と系統」で加藤雅啓先生がまとめられた維管束植物の系統樹を参考に、時代が進むにつれ系統図が伸びていくような

3次元動画CGを製作しました。さらに系統樹が伸びて行くに連れて、その化石植物のイラストが立ち上がってくるようにして、植物のイメージをもってもらうようにしました。



植物の系統樹の3次元動画CG

Archaeofructusの復元模型の製作

先ほど話したArchaeofructusは水生の草本と考えられ、花は花弁や萼はなく、2つ折りの心皮(袋果)が茎の先の方に付き、その下に雄薬が付きます。葉は深く切れ込んでいて、水生に適した形をしています。当館では、*A. sinensis*と*A. liaoningensis*の

2種の実物大の復元模型を製作しました。

製作方法は、記載や化石を元に心皮や雄薬の鑄型をエポキシ樹脂で作ります。心皮はちょうど餃子を包むように胚珠状の粒を一つ一つ包み作りしました。できた鑄型からシリコンゴムで型をつくり、型にポリエチレン樹脂を流し込み、心皮や雄薬のパーツを作りました。心皮は成熟段階によって何種類かの大きさを作りしました。葉は化石から書き起こした原図を0.5mm厚のステンレス板に転写し、その周りを酸でエッチングし製作しました。そのため、細く切れ込んだ全裂の葉身の様子が再現できました。次に彩色ですが、色は化石に残らないため想像で行うしかありません。*A. sinensis*は、水生の沈水性の植物とされていることから、現生の*Cabomba* (Cabombaceae)の色を参考に透明感のある薄い黄緑色を使用しました。*A. liaoningensis*はそれに比べ、水深の浅い湖岸のようなところに生育していたと考えられることから、比較的濃い色にしました。



*Archaeofructus liaoningensis*の復元模型(高さ16cm)



*Archaeofructus sinensis*の復元模型(高さ35cm)

おわりに

博物館職員として業務に携わっていますが、一般の方だけでなく、次の世代の子供たちに、いかに植物学や古植物学というものの素晴らしさや楽しさを伝えられるかと日々考えています。映像制作では、夢を持って研究している研究者の熱意を伝えるだけでなく、いかに分かりやすく伝えることができるかにこだわり、我々が普通に使う植物の形態用語や概念を一つ一つ吟味して、シナリオを作りました。模型製作においても、研究者が見ても科学的であり、一般の方が見ても精巧で素晴らしいものにしたという思いで製作に取りかかりました。今回、映像制作や模型製作などとおして、すこしでも科学や学問に興味を持っていただけたらと願う次第です。

この映像を制作するのに映像制作会社やCG製作会社、さらに模型製作会社の方々に私の拘りからでた我が儘な注文に応じていただきました。さらに取材協力、情報提供などでは、孫革教授、西田治文教授、高橋正道教授、邑田仁教授、東馬哲雄博士、渡邊香奈氏、山田敏弘博士にお世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。

映像は当館2階の視聴覚ライブラリーで自由に見られるようになっていますので、どうぞご覧いただき御批評していただけたら幸いです。また、*Archaeofructus*の模型は現在開催中の特別展「大空に羽ばたいた恐竜たち展」(平成17年7月15日～11月3日)で実物標本と共に展示されています。特に*A. sinensis*は中国地質科学院所蔵のホロタイプ標本が展示されています。ぜひ見に来てください。

福井県立恐竜博物館

〒911-8601 福井県勝山市村岡町寺尾51-11

(勝山市長尾山総合公園内)

電話: (0779) 88-0001【代】 FAX: (0779) 88-8700

ホームページ: <http://www.dinosaur.pref.fukui.jp/>

☆開館時間は午前9時から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

編集後のつぶやき

清水先生からの投稿記事で数年前を思い出した。北京であった染色体シンポへの参加がてらハーバリウムに寄った。そこでたまたま第三回国際植物標本保蔵大会が開催されており、成り行きで参加することになった。ちょうど貿易センタービル崩落のテロの直後で、米国研究者は参加を取りやめていた。そのせいもあって会はこちらんまりとしていたが、オーガナイザーの教授先生達の人柄の良さもあり、非常になごやかかつアットホームな雰囲気、えらく愉快だった記憶がある(今思い出しても笑える場面が断片的に思い浮かぶ)。次期オーガナイザーのインドの先生(多分あれがRao氏)が「次はインドで待ってるぜ!」とスゴイ勢いで演説されていたのが印象に残っていたのだが、もうそれが今年とは。きっと今年の大会もまた心のこもった歓待が準備されているに違いない。一般的な学術研究発表の大会とはひとあじ違った楽しさがあるのは、「お金ないしあんま評価してもらえないしツライけど、でも大事だし、やるっきゃないよね」「わかるわかる」みたいな同胞意識があるからかもしれない(あくまでわたくしの個人的見解)。今年は無理だが、また参加してみたい国際大会のひとつである。

編集人・三島

シリーズ・ハーバリウム紹介

倉敷市立自然史博物館標本庫のご案内

狩山俊悟(倉敷市立自然史博物館)

倉敷市立自然史博物館について

倉敷市に寄贈された5万点の宇野確雄植物コレクションがひとつの契機となって、1983年に倉敷市立自然史博物館が開館しました。自然史分野をすべてカバーする博物館としては岡山県唯一です。地学、植物、昆虫、動物の担当学芸員が各1名いて、植物と昆虫分野には標本整理の臨時職員がそれぞれ1名配置されています。倉敷市立自然史博物館友の会の会員を中心に、ボランティアによる標本収集や標本整理が活発に行われています。



標本庫の概要

標本庫の名称はKURAと仮称しています。同じ標本庫内には昆虫標本とほ乳類、鳥類の標本が混在しています。植物標本は維管束植物のさく葉標本が主で、ほかに果実・種子、材幹、コケ植物、地衣類、藻類、菌類などの標本が少しあります。さく葉標本の収蔵点数は約21万点、そのうち16万点がデータベースに登録されています。



植物標本の収集方針

岡山県内は市町村単位に1種1点以上、岡山県以外は都道府県単位に1種1点以上を目標に収集しています。受入方法別では、寄贈標本と館員による採集が多く、交換標本もたまにあります。岡山県産の標本を重点的に集めていますが、北海道の標本や石炭地帯の標本も少なからずあります。

植物標本データベースについて

使用ソフトは管理工学研究所の「桐 ver. 9」です。入力項目は、登録年月日、標

本番号、和名、学名、採集地、緯度、経度、標高、採集年月日、採集者、採集者番号、科名、科名番号、備考、受入年、受入番号、都道府県、郡、市町村、地名1、地名2、市町村コード、3次メッシュコードの23項目です。和名を入力すると学名、科名、科名番号(エングララー)は自動的に読み込まれます。「採集地」にはラベルに記入されているオリジナルの産地を入力し、都道府県から地名2までには作業用のデータ(合併後の新地名とか)を入力しています。市町村コードや3次メッシュコードは必須項目ではありません。

本の紹介と配布

近畿地方植物誌の刊行を祝す

先号のニュースレターでも紹介されたが、この度、村田源先生が長年かけて調査をされ、兵庫県生物学会や近畿植物同好会に45回にわたって投稿され続けた近畿地方植物誌が「レッドデータブック近畿研究会」の皆様のご苦勞により1冊の本にまとめられて「大阪自然史センター」から発刊された。大変嬉しくもありありがたいことである。

つい先日のことであるが、スゲの会の全国大会を大阪で引き受け、1泊のエクスカッションを金剛山で行った。熱心な人は朝早く起き、香南荘の周辺を散策したようである。私が起きると早速示されたのが「アズマスゲ」であった。金剛山にアズマスゲができることは不覚にも知らなかったので帰宅してすぐに近畿地方植物誌を見たら「金剛山(村田保太郎15, V, 1938 KY0)稀」となっていた。なるほど!と頷くばかりである。カヤツリグサ科にしか関心を示さない私ですら、このように折に触れて近畿地方植物誌のお世話になっている。ましてや、地域フロラにたずさわる人や、レッドデータにたずさわる人においては---であろう。そしてそれらの人達にとっては1冊にまとめられたことの意義は非常に大きいことであろう。

今回、1冊にまとめるにあたって編集者の英断で「近畿地方植物分布概説」(1968)を巻頭に掲載されたことは非常に喜ばしいことである。この論文は近畿地方を4つの植物区系に区切ってあり、どのように区切られるかも図で示している。近畿地方で植物の分布を調べる場合に大変重要な目安を与えてくれる貴重な図である。近畿植物同好会会誌に発表されたものなので相当な古参会員以外は持っていないはずである。また、さらに詳しく調べたい人には巻末に関連文献が挙げられているので、すぐさま詳しい知見を我がものとするのが可能である。

この本の強みは、何と言っても著者自身が責任を持って同定された標本に基づいているということである。ある自然保護関係の団体の会員から「〇〇なんていたる所にあるのに、産地が少ししか書かれていない」という批判を聞いたことがあるが、責任を持って同定すると言うことがこの本の基本になっていることを、彼らはよく分かっていないようだ。ましてや、「1つ1つ原記載にさかのぼって調べた」という本書の前書きを読んで気が遠くなりそうだったのは私一人ではあるまい。(織田二郎)

絵はがき「日本の絶滅危惧植物」好評販売中!



【単価購入部数により割引いたします。】1部600円, 2~9部500円, 10~49部450円, 50~99部420円, 100部以上400円(いずれも1部あたりの価格)。

【送料】1~2部200円, 3~9部300円, 10部以上は無料。

【問い合わせ先】黒沢高秀 〒960-1296福島市金谷川1
福島大学共生システム理工学類

大いなる自然の実験場—クラカタウ島研究論文集—

The Krakataus: Changes in a Century since Catastrophic Eruption in 1883

田川日出夫編 鹿児島2005 非売品(希望者に送料のみで配布)

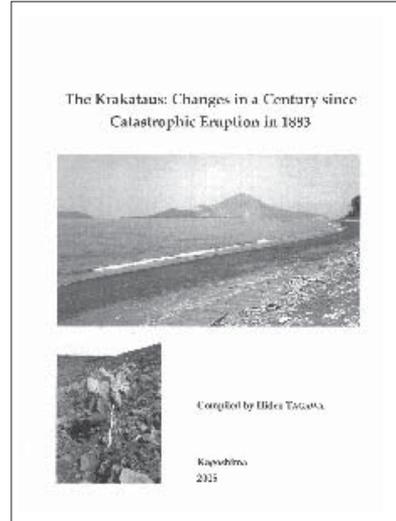
クラカタウはジャワとスマトラの間にある火山島です。1883年に史上最大の噴火を起こした結果、島の3分の2が吹き飛び、まわりの島には軽石や火山灰が数十メートル降り積りました。津波によって3万6千人が亡くなったそうで、クラカタウとその周辺計3つの島の生物も、この噴火ですべて死滅したと考えられています。

島の生物が死滅した…恐ろしい話ですが、このときから島は大いなる自然の実験場となりました。ゼロになった島で、どのような生物がどの段階で入り込み、どのような生態系を作り上げていくのか—いつもはシミュレーションでしか考えられなかった現象が目の前で繰り広げられたのです。

前置きが長くなりましたが、今回ここで紹介する書籍は、このクラカタウ島に関する研究成果を集めた論文集です。この論文集自体には、1981年から82年にかけて行われた、鹿児島大学の研究者を主とするチームの研究を中心に、計46本が納められています。噴火直後からの研究がすべて載っているわけではありませんが、当時から1980年までの研究も多数引用されており、この一冊でこの島の研究の概要がわかります。

なおこの論文集の大きな魅力のひとつは、地学・土壌学・植物学・動物学の論文が一つにまとめられていることです。

植物の分布や生態を考える際は、土壌や動物との関連も知りたいと思うものですが、自分の守備範囲外の論文はなかなか手が届きません。その点この論文集は、一つの島の噴火後の遷移について多方面から見た研究を一度に手にできるものです。私が面白く読んだのは、他の地では寄主ではなかった植物にまで大発生した虫の話や、周



辺の島の、生物移入の「飛び石」としての効果調べた論文などです。これらは動物関連の論文なので、植物だけを視野に入れては知らぬまま終わったかもしれません。

この論文集は一般には販売されていません。編者のご厚意で、送料(500円)のみで入手が可能です。ご希望の方は下記までご連絡ください。なお、ほとんどの論文が英語です。また、部数が約100冊と限られていますので、ご要望に添えない場合はご容赦ください。

申込先: 田川日出夫先生

E-mail: Hideo.Tagawa@mb8.seikyuu.ne.jp

〒892-0874 鹿児島市緑ヶ丘町12-13

Tel. & Fax.: 099-243-1178

★申し込む際には、氏名・住所のほか、必ずe-mailアドレスまたはFAX番号をお知らせ下さい。

(西田知佐子)

植物地理などに関する耳より情報(別刷り配布のご案内) ——

- 1) 堀田満著(2004)奄美群島の稀少・固有植物種の分布地域について(鹿児島県立短期大学紀要 55: 1-108)
- 2) 堀田満著(2004) 解説: 中尾佐助・農耕起源論の成立過程(中尾佐助著作集第1巻: 709-730. 北海道大学図書刊行会)
- 3) 堀田満著(2004-2005) 豊饒の湿潤熱帯に植物たちをたずねて(Ecosophia 13: 64-71; 14: 52-59; 15: 70-77)
- 4) 堀田満、菅原敬、田畑満大著(2005) 奄美群島域でのカンアオイ類の分布と分化(「奄美群島重要生態系調査」のための基礎資料報告書)

植物地理、そして有用植物-この2分野の重なり合うところに立つ研究者、堀田満氏の最近の論文別刷りを、ご希望の方にお配りするお知らせです。

堀田氏については今さら紹介するまでもないでしょう。「植物の分布と分化」「世界有用植物事典」などを読んで、経験に裏打ちされたその膨大な知識に圧倒された人も多いはず。その堀田氏が、最近の論文で入手しにくいものを電子ファイルで配布してくださるとのことです。ごく簡単ですが、内容を番号順に紹介します。

1) 文字どおり、奄美群島に生育する稀少種・固有種の分布をまとめた論文です。この地域の植物地理学的特徴が、生活様式や分布類型ごとに簡潔にまとめられています。資料として添付された343種類の植物の分布図は圧巻です。

2) 中尾佐助のもっとも重要な業績の一つである「農耕起源論」が作られた学問的背景を、直に接した中尾氏の一面も紹介しながら解説しています。解説だけ読んでも非常に面白いものです。

3) 堀田氏が20~30代に行った熱帯調査の体験談。初めての熱帯でモクマオウを

裸子植物と間違えた話など、「あの堀田さんが！」という楽しいこぼれ話満載です。

4) 奄美群島に多くの固有種をもつカンアオイ類の分布を丹念に調べた報告書です。研究史や分布特性の解説とともに、カンアオイ類の分化の仮説を地史や生態的情報をもとに考察しています。知的好奇心をくすぐる論文です。



撮影: 菅原敬氏

どの論文も、その面白さは紹介しきれません。ぜひご自身でお読み下さい。

○配布形式: 基本的に電子ファイル(PDFファイル)で配布します。どうしても冊子の形で欲しい方は、堀田先生までご相談ください。冊子は数が非常に限られています。

○電子ファイルの申込: ご希望の別刷りを明記の上、堀田先生まで電子メールでお申し込みください。(Mitsuru.Hotta@mb9.seikyuu.ne.jp)。

○堀田先生の連絡先: 〒890-0081 鹿児島市唐湊4-6-18 西南日本植物情報研究所
E-mail: Mitsuru.Hotta@mb9.seikyuu.ne.jp
Fax: 099-812-2005

○配布時の注意: 送信の容量が限られるため、一つの別刷りがいくつか分割されて届くと思います。あらかじめご了承下さい。(西田知佐子)

いきもの便り

韓国の美味しい種・1・

Park, ChanHo (パクチャンホ)

最近の韓流ブームは私には非常に嬉しいことである。その理由は芸能界のことだけではなく、お互いの国に対して幅広い分野で知りたいという動きがあちこちで活発になっているからだ。私もこの機会に韓国の色んな植物を知りたいと思っている。ただの植物の紹介だけでは面白くないと思うので韓国文化の一面と一緒に話しをしてみたい。

マスコミでは最近色んな韓国の食文化や食べ物について紹介されているがそれはごく一部だけで、一般家庭での食べ物を見るとかなりバリエーションがあり、他にも美味しいものが沢山ある。特に韓国の食卓では山菜で作った料理や御菜が欠かせない。作り方、食べ方も色々あって生のまま食べたり乾燥させて使ったりもするし、それをキムチやナムルにしたりして食べる。その素朴な美味さは韓国の一般的な家庭の味でもある。

普通、山菜摘みの時節は春だが夏や秋でも採れるものも結構あるのだ。今回は夏に食べられる山菜の中でユキノシタ科の植物を紹介する。*Saxifraga fortunei* var. *koraiensis* Nakaiは日本のダイモンジソウの仲間であぐ谷沿いの湿った岩場に生える植物である。韓国名の意味は「岩にくっついてる草」という意味で、花期は7月から9月、韓国南部の智異山(チリサン)に分布する韓国固有植物である。智異山は朝鮮半島の南で一番大きい山で、韓国では一番目に国立公園になるほどの自然環境が良いところである。今から10年前の夏に調査で智異山に行った時だった。智異山は学部の時から年2回以上は必ず行くほど好きな山であり、大体のルートは完全に把握しているので一人でいった。最初は山小屋を利用し、3日を予定していたが次々と欲張りになり新しいところまで行ってしまった。結局5日目には持っていた食料もなくなり、計画外にサンプリングも多かったのが荷物もかなり増えて

しまいで下山することにした。途中で地元のおじさんに出会い、その家でごちそうになることになった。外他の人は殆ど来ない山奥であつて、久しぶり若者に会ったうれしさか色々なごちそうが出してくれた。地元で採った山菜の御菜も多かった。その中に数十枚ぐらいの腎円形の生葉っぱがおいてあつて、普通焼き肉やご飯を包みたべるサンチュやエゴマの葉みたいに食べて見なさいと言われた。唐辛



Saxifraga fortunei var. *koraiensis* の植物全体と葉

子味噌を少しご飯にのせて食べたら苦みや後味もなく夏の香りがする美味しいものであつた。今まで食べたことがないといいながら何の植物かを調べたら、おじさんは3枚以上食べなさいといただいた。その理由を聞くと地元では一生のあいだこの葉っぱを3枚以上食べないと天国に行けないという伝説があるらしい。それを聞いて私は何枚も食べた。結局その植物がある場所まで行って見たら日暮れになり、もう一泊山小屋に泊まってしまった覚えがある。その翌年また智異山に行った時に他の谷沿いで花が咲いている群落が見つかり喜んだ思い出がある。後で聞いたが智異山国立公園周辺の地域を開発する計画があつて、数ヶ所の谷沿いが開発された。そのおじさんのところの谷沿いも多分開発されただろう。固有植物が減るのも非常に残念だが、その植物に伴う色んな話や文化も減って行くのも悲しい。

またもう一度に智異山に行って

その夏の香りを味わいたい。

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読
申込などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

国立科学博物館筑波実験植物園

日本植物分類学会 田中法生(会計幹事)

Phone: 029-853-8433

Fax: 029-853-8998

E-mail: ntanaka@kahaku.go.jp

会費: 一般会員5,000 円、学生会員3,000 円、

団体会員8,000 円

郵便振替 00120-9-41247

名 義 日本植物分類学会

平成17(2005)年8月18日印刷

平成17(2005)年8月22日発行

編集兼 福岡市東区箱崎6-10-1

発行人 九州大学総合研究博物館

三島美佐子

発行所 福島市金谷川1

福島大学共生システム理工学類内

日本植物分類学会